

令和7年度

**教育委員会の事務の管理及び執行の状況
の点検及び評価に関する報告書【概要版】**

（令和6年度対象）

令和7年9月

香川県教育委員会

目 次

I	目的と制度の概要	1
II	点検・評価の方法	
III	点検・評価の結果	3
1	学力の育成	4
2	心の育成	8
3	体の育成	12
4	郷土を愛し、郷土を支える人材の育成	14
5	安全・安心で、魅力あふれる学校づくり	17
6	家庭や地域での学びの環境づくり	21
7	スポーツの振興	23
8	文化資源の継承・充実と地域づくりへの積極的な活用	25
IV	「香川県教育基本計画」及び「『人生 100 年時代のフロンティア県・香川』実現計画」に掲げている数値目標に対する現状と評価	26
V	報告書の公表	27

(参考) 令和 6 年度に策定した計画 (プラン)

I 目的と制度の概要

効果的な教育行政の推進に資するとともに、県民への説明責任を果たしていくため、教育委員会が、毎年、その権限に属する「事務の管理及び執行の状況」について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表する。

II 点検・評価の方法

- 1 令和 6 年度における教育委員会の権限に属する「事務の管理及び執行の状況」について、「香川県教育基本計画」及び「『人生 100 年時代のフロンティア県・香川』実現計画」で掲げる数値目標の進捗状況を踏まえて、主な取組みの実施状況及び成果を記載することにより、点検・評価を実施した。

「香川県教育基本計画」について

本県教育の進むべき方向とめざすべき目標、そして、それらを実現するための総合的な教育施策を明らかにした本県における教育振興のための施策に関する基本的な計画で、計画期間は令和3年度から令和7年度の5年間。なお、この計画は「『人生100年時代のフロンティア県・香川』実現計画」の教育・スポーツに関する分野別計画である。

「郷土を愛し 夢と志を持って 自ら学び 歩み続ける人づくり～自立・協働・創造を支える香川の教育～」を基本理念に掲げ、これを実現するため、次の7つの重点項目を定め、教育施策を推進する。

〔重点項目〕

1. 学力の育成
2. 心の育成
3. 体の育成
4. 郷土を愛し、郷土を支える人材の育成
5. 安全・安心で、魅力あふれる学校づくり
6. 家庭や地域での学びの環境づくり
7. スポーツの振興

「『人生100年時代のフロンティア県・香川』実現計画」について

本県の進むべき基本的方向とそれを実現するための方策を明らかにした県政運営の基本指針で、計画期間は令和3年度から令和7年度の5年間。「人生100年時代のフロンティア県」の実現を基本目標に掲げ、安全・安心で住みたくなる香川をつくる「県民100万人計画」、活力に満ち挑戦できる香川をつくる「デジタル田園都市100計画」、多くの人が行き交い訪れたくなる香川「にぎわい100計画」の3つの基本方針のもと、みんなで子育て・挑戦できる・訪れたくなる香川をめざしている。

2 点検・評価を行うに当たっては、令和7年7月17日、18日、23日に地域教育行政懇談会を開催し、本県の教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図った。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

数値目標に対する評価について

「『人生100年時代のフロンティア県・香川』実現計画」に掲げる施策ごとの数値目標の行政評価と同様の手法により数値目標に対する評価を行っている。

（例：令和6年度実績値（4/5年間））

- A：達成率が80%以上（概ね順調に推移した。）
- B：達成率が40%以上80%未満（順調ではないが一定程度進展した。）
- C：達成率が0%超40%未満（順調ではないが少しは進展した。）
- D：達成率が0%以下（進展していない。）
- ：統計の調査年等の関係で評価ができないもの。

Ⅲ 点検・評価の結果

施策体系

本県教育の基本理念「郷土を愛し 夢と志を持って 自ら学び 歩み続ける人づくり
～自立・協働・創造を支える香川の教育～」を実現するため、各重点項目の基本的方向を踏まえ、計画的・総合的かつ積極的に取組みを展開する。

重点項目	基本的方向	取組みの内容
1 学力の育成	①確かな学力の育成と 個に応じた教育の推進	1 確かな学力の育成 2 読解力の育成 3 ICTを活用した教育の推進 4 小・中・高等学校を通じた外国語教育の推進 5 幼児期の教育の推進 6 特別支援教育の推進 7 校種間連携の推進
2 心の育成	①豊かな心、多様性を 尊重する心の育成	1 道徳教育の充実 2 自己肯定感・自己有用感の育成 3 豊かな感性や情操の育成 4 人権・同和教育の推進
	②共感的理解に基づく 生徒指導の充実	1 いじめや暴力の未然防止 2 不登校児童生徒への支援 3 インターネットの適正利用と ネット・ゲーム依存予防対策の推進
3 体の育成	①未来を支える健やかな 体づくりの推進	1 体力づくりの推進 2 健康教育の推進 3 食育の推進
4 郷土を愛し、 郷土を支える 人材の育成	①郷土を支える 教育の推進	1 郷土に誇りを持つ教育の推進 2 社会に参画する力の育成 3 キャリア教育の推進
	②地域を担う グローバル人材の育成	1 グローバル人材の育成 2 課題解決能力の育成
5 安全・安心で、 魅力あふれる 学校づくり	①安全で安心できる 学校づくり	1 学校の安全・安心の強化 2 学校施設等の整備、充実 3 学びのセーフティネットの構築
	②教職員の 資質・能力の向上	1 優れた教職員の確保と資質・能力の向上 2 学校における働き方改革の推進
	③信頼され魅力ある 学校づくり	1 地域と協働する学校づくりの推進 2 学校の特色化・魅力化の推進
6 家庭や地域での 学びの環境づくり	①家庭・地域の 教育力の向上	1 家庭の教育力の向上 2 地域の教育力の向上
	②いつでも学べる 環境づくり	1 子どもが読書に親しめる環境づくり 2 生涯学べる環境づくり
7 スポーツの振興	①多様な スポーツ環境づくり	1 生涯にわたりスポーツに親しむことが できる環境づくり
	②スポーツ競技力の向上	1 トップアスリートをめざし、競技力を 高めることができる環境づくり

「『人生 100 年時代のフロンティア県・香川』 実現計画」に掲げる施策

8 文化資源の継承・充実と地域づくりへの積極的な活用（施策 80 文化芸術による地域づくり）

1 確かな学力の育成

令和 6 年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 4 ～ 6 頁

児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導の充実

- ・ 小学校高学年において、3 ～ 4 教科、週 8 時間程度、専科担当教員による専門的な指導を実施
- ・ 学校の教育力を高めるための先導的な研究により、確かな学力の定着を促進するため、『個別最適な学び』と『協働的な学び』の実現推進モデル校』『読解力』向上推進モデル校』『外国語教育推進モデル校』を指定（7 校）

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R6 年度実績	評価	R7 年度目標
1	「授業の内容がよく分かる／だいたい分かる」と回答した児童生徒の割合	%	小学校 5 年生 73.1 中学校 2 年生 59.5	小学校 5 年生 67.5 中学校 2 年生 54.3	D	小学生 77 中学生 65
2	全国学力・学習状況調査における正答率 40%未満の児童生徒の割合の全国平均との差	pt	小学校 6 年生 -1.8 中学校 3 年生 0.0 (R 元年度)	小学校 6 年生 -1.8 中学校 3 年生 0.7	D	小学生 -2.4 中学生 -0.6

評価・課題

- 「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実を目指した授業改善を推進したり、総合的な学習の時間など探究的な学びを推進したりすることで、児童生徒の学習意欲を高めていく必要がある。

今後の展開

- 「香川型指導体制」の成果や課題等を検証し、子ども一人ひとりの成長やつまずきを理解し、個々の興味・関心に応じたきめ細かな指導・支援や、子ども同士の話し合いの活性化などに一層取り組むために、小・中学校全学年での 35 人学級の実施の継続や小学校における教科担任制の中学年への拡充を図っていく。

2 読解力の育成

令和 6 年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 7 ～ 8 頁

学校における読書活動の推進

- ・ 県内の児童がオンラインを通じて、好きな本を紹介し合うオンラインミーティングを実施

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R6 年度実績	評価	R7 年度目標
3	「読書は好きですか」との質問に、「好き」または「どちらかといえば好き」と回答した児童生徒の割合	%	小学校 5 年生 79.7 中学校 2 年生 74.0	小学校 5 年生 73.1 中学校 2 年生 63.7	D	小学校 5 年生 82 中学校 2 年生 75

評価・課題

- 授業において友達と交流する学習を重視し、言語活動の一層の充実を図るとともに、読書活動を一層推進していく必要がある。

今後の展開

- 県教育委員会が選定した推薦図書「香川の子どもたちに贈る 100 冊」について、児童生徒相互にお気に入りの本を紹介・推薦し合ったり、書評や本の帯等を募集したりするなど読書活動を一層推進していく。

3 ICTを活用した教育の推進

令和6年度の主な取組み・実績

詳細は全体版9～10頁

情報活用能力の育成

- ・ 教員がICTを有効活用して指導する能力を向上させるため、1人1台端末活用のための研修等を実施
- ・ 香川県学校教育情報化推進計画に基づいたICT活用の効果的な実践に向け、学校種ごとの実践校の指定等による実証研究と、その成果の普及等を実施

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R6年度実績	評価	R7年度目標
4	授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合	%	小学校 68.8 中学校 59.2 高校 85.4 特別支援学校 70.5 (R元年度)	小学校 76.5 中学校 65.7 高校 85.4 特別支援学校 79.9 (R5年度)	D	小学校 100 中学校 100 高校 100 特別支援学校 100

評価・課題

- 市町教育委員会と緊密に連携し、県内での学校ICT環境の共通化を推進できている。
- ICT活用教育のさらなる推進のためには、学校におけるICTの日常的な活用が不可欠であり、教員のICT活用指導力の向上と、学校ICT環境の継続的な整備が必要である。

今後の展開

- 指導主事等を派遣した校内研修の支援や、情報教育に関する研修講座増設により、教員のICT活用指導力の向上を図る。

4 小・中・高等学校を通した外国語教育の推進

令和6年度の主な取組み・実績

詳細は全体版11～12頁

コミュニケーション能力を育成する英語教育の推進

- ・ 令和6年度から、外部検定試験（小学校：英検ESG、中学校：英検IBA）の実施により児童生徒の英語力を把握し、その結果を踏まえ指導方法を工夫・改善

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R6年度実績	評価	R7年度目標
5	「英語の授業では、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか」との質問に「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	%	中学校 75.8 (R元年度)	中学校 80.7	A	中学校 80

評価・課題

- 小・中学校で、ネイティブ・スピーカーを活用したり、外国語に堪能な地域の人々の協力を得たりしている市町の割合は100%であり、英語でのコミュニケーションを図る資質・能力の育成が図られている。

今後の展開

- 小・中学校、高校の各段階の接続を意識した英語教育をより一層推進する。

5 幼児期の教育の推進

令和6年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 13～14 頁

教員研修の充実

- 令和5年度から義務教育課内に設置した「かがわ幼児教育支援センター」を拠点とし、就学前教育施設に対する職員研修を実施

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R6 年度実績	評価	R7 年度目標
6	幼小の円滑な接続に向け、接続期のカリキュラムを検討する研修会に参加した幼稚園の割合	%	20.5	78.8	A	80

評価・課題

- 子ども・子育て支援新制度に基づき、幼稚園・保育所・認定こども園が連携を図りながら、ともに乳幼児期の教育の質の向上を図っていく体制を構築していく必要がある。

今後の展開

- 令和7年3月に作成した幼保小の架け橋プログラムに関するリーフレットを各種研修会で活用し、「架け橋期」の教育の充実を図る。

6 特別支援教育の推進

令和6年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 15～17 頁

切れ目ない支援体制の充実

- 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成や活用について、幼稚園、認定こども園、小・中学校、高校の管理職・教員を対象に研修会を実施

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R6 年度実績	評価	R7 年度目標
7	通常の学級に在籍する、障害のある児童生徒などのうち、特別な支援を必要とする児童生徒※の中で、「個別の指導計画」が作成されている割合 ※通級による指導対象者を除く	%	小学校 37.3 中学校 11.0	小学校 48.7 中学校 13.3	C	小学校 60 中学校 50

評価・課題

- 小・中学校の通常の学級に在籍する支援の必要な児童生徒について「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成が進んでおらず、組織的かつ計画的な支援ができていない。

今後の展開

- 令和7年3月に、小・中学校長等に対し、通常の学級に在籍する支援の必要な児童生徒について、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成・活用するよう通知を発出したところである。引き続き、作成状況の把握に努め、小・中学校への指導や相談の支援の中で、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成及び活用について指導していく。

7 校種間連携の推進

令和6年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 18～19 頁

中高一貫教育の充実

- ・ 高松北中学校において、高校教員が、中学生に対して高校の授業体験や進路面談を行うとともに、高松北高校生による、中学生への学習指導や進路講演会を実施

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R6 年度実績	評価	R7 年度目標
8	異校種の児童生徒を対象とした交流事業を行っている県立高校の割合	%	24.1	55.2	A	50

評価・課題

- 学校行事の中で異校種の児童生徒を対象とした交流事業を実施することができた。

今後の展開

- 異校種の児童生徒を対象とした交流事業の実施について、実施方法の検討や見直しをすることで交流事業の拡大を図る。

1 道徳教育の充実

令和 6 年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 20～21 頁

家庭や地域と連携した道徳教育の推進

- 希望する中学校に、義務教育課、県警人権安全・少年課、斯道学園等の職員を講師として派遣し、中学校 1 年生を対象に、社会の一員として法を守ることの大切さや犯罪に巻き込まれないための方法、ネットモラル等を理解させ、規範意識等を高めることを目的とした「13 歳の自律教室」を実施（63 校）

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R6 年度実績	評価	R7 年度目標
9	「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」との質問に、「思う」と回答した児童生徒の割合	%	小学校 5 年生 77.2 中学校 2 年生 76.1	小学校 5 年生 76.7 中学校 2 年生 75.5	D	現状を上回る水準

評価・課題

- コロナ禍を経て、また、働き方改革等の観点から、学校行事の見直しなどの工夫をすることができたが、友達との交流場面において、言葉を補いながら丁寧に意思疎通を試みていこうとする、児童生徒のコミュニケーションに対するモチベーションをいかに高めていくかが課題である。

今後の展開

- 「人の気持ちが分かりたい」という意識や規範意識を醸成するために、「13 歳の自律教室」について内容の充実を図るとともに、集団の中で個を育てる学校において、さまざまな他者との関わりが児童生徒自身の主体的な思いから生まれるよう、学校の枠を越えた児童生徒による自発的・自治的な交流活動を促す「いじめゼロ子どもサミット」等の活動を積極的に支援する。

2 自己肯定感・自己有用感の育成

令和 6 年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 22～23 頁

児童生徒によるボランティア活動の推進

- 美化活動、交流活動、社会福祉関連活動など、学校ごとに特色あるさまざまなボランティア活動を実施

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R6 年度実績	評価	R7 年度目標
10	「自分には、よいところがあると思いますか。」との質問に、「思う」または「どちらかと言えば思う」と回答した児童生徒の割合	%	小学校 5 年生 71.2 中学校 2 年生 66.4	小学校 5 年生 70.8 中学校 2 年生 72.1	C	小学校 5 年生 72 中学校 2 年生 67

評価・課題

- 自分には、よいところがあると肯定的に回答した児童生徒の割合は、前年度と比べ、小学校で 1.2pt、中学校では 1.5pt 向上している。また、中学校では、教育基本計画策定時と比べ 5.7pt 増とコロナ禍前の水準を上回る一方、小学校では 0.4pt 減とコロナ禍前の水準には回復していない。気持ちを言葉で表現するコミュニケーションスキルが未熟な小学校では、人間関係がうまくいかない場面も多く、地域との交流活動等も見直しが行われたために、自分のよさを実感できていない可能性が考えられる。

今後の展開

- 小・中学校におけるボランティア活動については、今後も内容の充実を図るとともに、地域の人々の参加や協力を得る活動の一層の推進などもあわせて、地域全体で子どもを育てる機運を一層高めていく。

3 豊かな感性や情操の育成

令和6年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 24～26 頁

学校における読書活動の推進

- ・ 読書の楽しさに出会う機会を創出できるよう、「香川の子どもたちに贈る 100 冊」を活用

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R6 年度 実績	評価	R7 年度 目標
11	「本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」との質問に、月に 1～3 回以上と回答した児童生徒の割合	%	小学校 5 年生 71.9 中学校 2 年生 33.1	小学校 5 年生 65.2 中学校 2 年生 29.8	D	小学校 5 年生 76 中学校 2 年生 38

評価・課題

- 小・中学校では、全校生で一斉読書活動に取り組んだり、図書の読み聞かせや推薦図書コーナーを設置したりするなど、読書推進活動への取組みが見られたものの、コロナ禍をきっかけに、学校における読み聞かせの機会等が減少し、読書への意識が高まらなかったことや、地域の図書館に行くことを控えたことなどにより、読書離れの状況が続いており、月に 1～3 回以上学校図書館・学校図書室や地域の図書館に行くと回答した中学生の割合は減少し続けている。

今後の展開

- 「香川の子どもたちに贈る 100 冊」等を活用して、児童生徒相互にお気に入りの本を紹介・推薦し合ったり、書評や本の帯等を募集したりするなどしながら読書活動を推進していくことで、読書の質の向上に取り組む。

4 人権・同和教育の推進

令和6年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 27～28 頁

人権や多様性を尊重する意欲や態度の育成

- ・ 多様性社会に適応できる豊かな心を育むことを目的に、さまざまな人権課題にかかわる当事者と交流するなどの参加体験型の児童・生徒・教職員向け研修を実施（7 月、8 月、10 月、11 月、1 月）

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R6 年度 実績	評価	R7 年度 目標
12	人権・同和教育教職員ハンドブックを活用して校内研修を行った学校の割合	%	50.8	94.5	A	100

評価・課題

- 「多様性社会に適応する豊かな心の育成事業」は、さまざまな人権課題にかかわる当事者と交流したり、参加者同士で考えを深めたりすることを通して、人権感覚を高めることができた。そのうち中高生と教職員が共に学ぶ研修では、人権課題の当事者から直接話を聴き、学んだ内容をまとめて、各学校で発表する生徒もいた。

今後の展開

- 令和3年度、全教職員に配付した人権・同和教育教職員ハンドブックの活用促進に向けて、研修会や出前講座等で実際に活用したり、活用方法を示したりすることで、ハンドブック活用の充実を図る。

1 いじめや暴力の未然防止

令和 6 年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 29～32 頁

人間関係づくり、自己指導能力の育成

- ・ 学級や学年等の枠を越えた児童生徒の自発的・自治的な交流活動により、自己の個性の発見とよさや可能性の伸長を図るとともに、社会的資質・能力の発達を支えるための調査研究と成果普及を総合的に行う「明日も行きたくなる学校づくりプロジェクト事業」を実施(小学校 3 校、中学校 1 校)

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R6 年度 実績	評価	R7 年度 目標
13	「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」との質問に、「思う」と回答した児童生徒の割合	%	小学校 5 年生 86.9 中学校 2 年生 82.5	小学校 5 年生 81.0 中学校 2 年生 78.4	D	現状を上回る水準

評価・課題

- 直近の調査結果である令和 5 年度の暴力行為の状況については、1,000 人当たりの発生件数は 8.5 件だった。いじめの状況については、1,000 人当たりのいじめ認知件数は 47.2 件で、全国平均 57.9 件を下回っており、認知の感度を高めていく必要がある。

今後の展開

- 児童生徒がいじめの問題を自分のこととして捉え、いじめの問題に正面から向き合い適切に対応できるよう、児童生徒の自発的・自治的活動を引き続き支援するとともに、関係機関と連携した出前授業を実施するなど、児童生徒の規範意識や道徳性・社会性の育成に努める。

2 不登校児童生徒への支援

令和 6 年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 33～35 頁

不登校、高校中退対策の充実

- ・ 不登校対策コーディネーターが、適応指導教室や民間のフリースクールを巡回し、不登校支援のネットワークづくりを実施(訪問先 3 箇所)(不登校児童生徒支援ネットワーク研修の開催 1 回)

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R6 年度 実績	評価	R7 年度 目標
14	「学校に行くのは楽しいと思う。」に「思う」または「どちらかと言えば思う」と回答した児童生徒の割合	%	小学校 5 年生 80.3 中学校 2 年生 76.5	小学校 5 年生 77.0 中学校 2 年生 77.0	D	小学校 5 年生 83.0 中学校 2 年生 82.3

評価・課題

- 直近の調査結果である令和 5 年度の小・中学校の 1,000 人あたりの不登校児童生徒数は、30.4 人で、全国平均 37.2 人と比べかなり少ない状況であり(少ない方から 4 番目)、病気以外で休めばまず電話連絡、次に家庭訪問、その次にチーム対応を基本とする対応は、一定の成果をあげている。

今後の展開

- スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどチーム学校の専門家の一層の活用を図り、学校の教育相談体制を充実するとともに、校内サポートルームを設置する学校を研究指定校とし、不登校傾向の児童生徒への効果的な支援を研究していく。また、学校だけでは対応できない生徒指導上の課題について、家庭や児童相談所等との連携強化を図るなど、より一層の改善に向けて取組みを強化する。

3 インターネットの適正利用とネット・ゲーム依存予防対策の推進

令和6年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 36～37 頁

ネット・ゲーム依存予防対策の推進

- 子どもたちのスマートフォン等の利用状況を把握するため、小・中学校、高校の児童生徒、保護者、学校を対象とした調査を実施し、結果をまとめた報告書を県教育委員会のホームページに掲載

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R6 年度実績	評価	R7 年度目標
15	「携帯電話やスマートフォン、ゲーム機などを使う場合、家の人と決めた使用ルールを守っていますか」との質問に、「守っている」または「どちらかといえば守っている」と回答した児童生徒の割合	%	小学校 5 年生 72.5 中学校 2 年生 60.6	小学校 5 年生 67.9 中学校 2 年生 60.9	D	小学校 5 年生 75 中学校 2 年生 66

評価・課題

- スマートフォン等の利用に関する調査においては、小・中学生の利用時間が長くなる傾向が見られるほか、ネット・ゲームへの依存傾向にあると考えられる児童生徒が依然として数%程度存在しているが、家庭でのルールづくりが進んできている傾向も伺える。

今後の展開

- 児童生徒が自らスマートフォン等の使用時間等を振り返り、ルールづくりについて家族と話し合えるようにするため、ネット・ゲーム依存予防対策のための学習シートの作成及び小・中学校、高校等への配付を継続して行っていく。各学校においては、学習シートを夏休み前のホームルームや保護者懇談会等で児童生徒や保護者に配付し、説明するとともに、夏休み後の振り返りに活用する。

1 体力づくりの推進

令和6年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 38～39 頁

体力づくり活動の推進

- ・ 日常的に体を動かす機会の減少や、基本的生活習慣の乱れなどにより、子どもの体力や運動能力の低下が課題となっていることから、外遊びを通して体力向上の取組みにつなげる「あそびンピック in Kagawa」に加え、本県の小・中学生の「握力」低下が課題となっていることから、児童が握る運動を行う「にぎりンピック in Kagawa」を新たに実施するとともに、日常の取組みを得点化して学校間で競い合う「Kagawa2024 体力番付」を実施

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R6 年度実績	評価	R7 年度目標
16	全国体力・運動能力調査の体力合計得点の全国順位の平均	単位	27 (R元年度)	31	D	20 以内

評価・課題

- 本県の小・中学校男子の「体力合計点」は、調査開始以降、最も低かった令和4年度の調査と比較すると回復基調であるが、小・中学校女子は横ばい傾向である。

今後の展開

- 「あそびンピック in Kagawa」や「Kagawa2024 体力番付」を中心に、小学校段階からの「運動の日常化」に向けた取組みを推進することで、体力向上をめざす。

2 健康教育の推進

令和6年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 40～41 頁

健康課題に対応した教育の推進

- ・ 生活習慣病の予防や、喫煙・飲酒・薬物乱用、性の問題行動、アレルギー疾患、心の健康問題等の地域における健康課題の解決を図るため、研修等で機会を捉え、情報を提供

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R6 年度実績	評価	R7 年度目標
17	肥満傾向児童生徒の出現率の平均 (各学校の出現率 5 年間平均)	%	小学校 7.76 中学校 9.27 高校 10.11 (H28～R2 年度の平均)	小学校 9.54 中学校 10.76 高校 10.53 (R2～R6 年度の平均)	D	現状からの減少

評価・課題

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から、生活習慣の乱れ等が原因となって体力の低下傾向が見られる。また、心の健康問題、アレルギー疾患、感染症、性に関する問題などの多様化する現代的健康課題に対応するため、保健主事がリーダーシップを発揮するとともに、養護教諭の専門性を生かし、学校教育全体を通して、健康教育を推進していく必要がある。

今後の展開

- 児童生徒の血液検査や生活習慣調べ等の結果に基づき、担任や養護教諭、栄養教諭、学校医等が連携し、児童生徒の発達段階に応じた健康相談や保健指導の充実を図るとともに、幼児期からの栄養、健康に関する取組みや、日常的に運動に親しみ、楽しみながら体力の向上を図る取組みを推進する。

3 食育の推進

令和6年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 42～43 頁

学校教育全体を通じて行う食に関する指導

- ・ 食に関する指導を中心的に行う給食主任、食育担当教諭、栄養教諭・学校栄養職員等に対し、学校における食育の実践的な取組みを推進するための研修を実施

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R6 年度 実績	評価	R7 年度 目標
18	栄養教諭・学校栄養職員による教科等における食に関する指導を行っている割合	%	小学校 96.0 中学校 79.1	小学校 96.0 中学校 85.5	D	小学校 100 中学校 100

評価・課題

- 食物アレルギー事故の事例をもとに注意喚起を行うとともに、事故防止の対策について研修を行った。今後も給食の安全・安心に向けて、食中毒防止や事故発生時の対応について市町教育委員会等に注意喚起を行っていく必要がある。

今後の展開

- 食に関する指導を中心に行う担当者に対し、学校における食育の実践的な研修を実施するなど、食を通じた健康の増進や、地域文化や伝統に対する理解・関心を深めるための指導ができる人材の育成を図る。

1 郷土に誇りを持つ教育の推進

令和 6 年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 44～45 頁

県立文化施設などを活用したふるさと学習の推進

- ・ 埋蔵文化財センターに施設見学で訪れた子どもたちに、讃岐国府跡をはじめとする地域の歴史を学ぶことや、昔の人々の暮らしの体験を通して、郷土の歴史・文化や先人たちの知恵に触れる機会を提供

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時 (R2)	R6 年度実績	評価	R7 年度目標
19	「今住んでいる地域(香川県)の歴史や自然、産業について関心がありますか。」との質問に、「ある」または「どちらかといえばある」と回答した児童生徒の割合	%	小学校 5 年生 66.4 中学校 2 年生 44.3	小学校 5 年生 69.9 中学校 2 年生 43.6	C	小学校 5 年生 68.7 中学校 2 年生 53.2

評価・課題

- 埋蔵文化財センターに施設見学で訪れた小・中学生に、讃岐国府跡をはじめとする地域の歴史を知り、竪穴住居等で昔の暮らしを体験する機会を提供した。さらに、より多くの児童生徒にセンターを活用してもらえるよう、さまざまな体験メニューの検討や機会の創出を図る必要がある。

今後の展開

- 埋蔵文化財センターにおいては、郷土の歴史を学び、郷土の大切さを知ることのできる場として、多くの児童生徒に活用してもらえるように、広く情報発信を行うとともに、教育機関や地域の諸団体と連携した取組みを行う。

2 社会に参画する力の育成

令和 6 年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 46～47 頁

消費者教育等の充実

- ・ 高校生向け消費者教育教材「社会への扉-12 のクイズで学ぶ自立した消費者-」(消費者庁作成)の活用や、関係機関等の実務経験者等との連携など、児童生徒が消費者として主体的に適切な意思決定ができる学習を充実

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時 (R2)	R6 年度実績	評価	R7 年度目標
20	外部の関係機関から講師を招聘して主権者教育や消費者教育、金融教育等の取組みを行っている県立高校の割合	%	62.1	75.9	C	100

評価・課題

- 新学習指導要領では、家庭科で将来に備えた資産形成について考え、金融サービスのメリット・デメリットやリスク管理についても効果的に学習できる指導方法の充実に努める必要がある。

今後の展開

- 生徒に適切な金融教育ができるよう、金融庁や銀行などの関係各所が実施している研修や出前講座などを一層活用し、生徒自ら主体的に考察したり議論したりする学習活動の充実に努める。

3 キャリア教育の推進

令和6年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 48～49 頁

キャリア教育の充実

- ・ キャリア教育充実事業として、企業経営者や伝統工芸士、弁護士などのプロ講師を県立高校に派遣し、講義や技術指導を実施（講師 111 人、派遣 25 校）

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R6 年度 実績	評価	R7 年度 目標
21	「総合的な探究の時間」や「課題研究」の授業などで、地元の自治体や大学、企業等と連携した取組みを行っている県立高校の割合	%	79.3	100	A	100

評価・課題

- 地元経済団体の協力のもと、出前授業やインタビューシップなどに取組むことにより人材育成やキャリア教育を充実させている。

今後の展開

- 進路意識や目的意識が低いまま進学・就職したり、進路選択を先送りしたりする生徒も一部にみられるため、発達段階に応じた体系的なキャリア教育を推進する。

1 グローバル人材の育成

令和6年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 50～51 頁

国際理解教育の推進

- すべての県立高校において、CAN-DOリストの「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の各目標を達成するために、どの段階でどのような指導と評価を行うのかを示す指導と評価の年間計画を作成

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R6 年度実績	評価	R7 年度目標
22	生徒が英語を用いた言語活動を、授業の半分以上において行っている公立高校の教員の割合	%	69.3 (R元年度)	51.6%	D	80

評価・課題

- 設定したCAN-DOリストを公開し、より一層の活用を図る必要がある。

今後の展開

- 高校においては、教育課程運営改善研究会で各学校において実践した英語による言語活動等についてグループ協議をし、他校の好事例を参考にして、自校での実践につなげる。また、学校訪問での教科会で、英語による言語活動について指導助言をすることを通じて、生徒の英語による言語活動を推進していく。

2 課題解決能力の育成

令和6年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 52 頁

課題解決型学習の推進

- 高校生や参観する教員が新たな価値の創造力を育成するプログラムを体験することでイノベーション教育の裾野を広げる「かがわイノベーションプログラム」を実施

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R6 年度実績	評価	R7 年度目標
23	課題解決型学習の推進に向けての校内研修を実施している県立高校の割合	%	34.5	51.7	C	100

評価・課題

- 関係校と連携して実施した研究成果を踏まえ、作成した課題解決能力の育成の在り方に関する手引書を用いて、課題解決能力の育成の在り方について具体的な理解を深めた。

今後の展開

- 課題解決能力の育成の在り方について、校内研修の充実を図るための助言を行う。また、実践事例を蓄積し、探究発表会等の機会を通じて全県的な普及を図る。

1 学校の安全・安心の強化

令和 6 年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 53～54 頁

防災教育の充実

- ・ 学校（園）の災害状況の把握に基づく地域等と連携した実効性のある防災訓練の在り方や、指導計画の作成等による防災教育の一層の推進を図るため、防災教育担当者等を対象に講習会をオンデマンド形式で実施

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R6 年度実績	評価	R7 年度目標
24	学校安全に関する外部の専門家や学校教育の専門家との連携を図るなど、学校安全計画や避難訓練等を外部有識者がチェック・助言する体制が整備されている学校の割合	%	41.6 (H30 年度)	76.6	A	60

評価・課題

- 地震発生を想定した避難訓練を実施している学校の割合は、どの校種とも 100%であった。

今後の展開

- 地震発生を想定した避難訓練については、地域や関係機関と連携したより実効性のある訓練となるよう継続的な働きかけを行うとともに、危機管理マニュアルの見直しに向けた指導を充実していく。

2 学校施設等の整備、充実

令和 6 年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 55～56 頁

県立高校の施設、設備の整備

- ・ トイレの洋式化を実施（高松高校など 6 校）
- ・ 県立高校等の普通教室、特別教室の冷暖房に係る経費の公費化

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R6 年度実績	評価	R7 年度目標
25	県立学校におけるトイレの洋式化の割合	%	県立中学・高校 60.6 特別支援学校 81.4	県立中学・高校 65.4 特別支援学校 87.0	A	県立中学・高校 65 特別支援学校 85

評価・課題

- 公立学校施設整備担当者会を開催し、学校施設整備事業の執行に係る留意事項等を周知することで、市町担当者の国庫補助制度に対する理解を深めることができた。
- 県立学校においては、トイレの洋式化や老朽化した校舎等の改築・改修等を計画的に進めていく必要がある。

今後の展開

- 香川県立学校施設長寿命化計画に基づき、計画的に施設設備の改修を行う。

3 学びのセーフティネットの構築

令和6年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 57～58 頁

幼児、児童、生徒の就学支援の充実

- ・ 特別支援学校に就学する幼児、児童、生徒の保護者等の学用品、給食費、修学旅行などの経済的負担を軽減するため、家庭の負担能力に応じて特別支援教育就学奨励費を支給

修学支援の充実

- ・ 経済的な理由で修学が困難な生徒等に対し、奨学金の貸付を実施
- ・ 基準所得を下回る世帯の高校生に対し、授業料に充てるための高等学校等就学支援金を支給

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R6 年度実績	評価	R7 年度目標
26	経済的な理由で修学が困難な生徒等に対する奨学金の貸与	%	—	—	—	着実な実施

評価・課題

- 経済的な理由により修学することが困難な生徒等に対し、奨学金の貸付を行うことにより、有為な人材の育成が図られている。
- 基準所得を下回る世帯の高校生に対し、高等学校等就学支援金を支給することにより、教育費負担の軽減が図られている。

今後の展開

- 引き続き、特別支援教育就学奨励費の支給により、特別支援学校へ就学する障害のある幼児、児童、生徒の保護者等の負担軽減を図る。
- 経済的な理由で修学が困難な生徒等に対して、奨学金を貸与し、優秀な人材育成や安心して子どもを育てられる環境づくりに努める。

1 優れた教職員の確保と資質・能力の向上

令和 6 年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 59～61 頁

優秀な教職員の確保

- ・ 教職への意欲と熱意を持った優秀な教職員を確保するため、「かがわで先生！」志願者アップ事業を実施

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R6 年度実績	評価	R7 年度目標
27	授業の内容がよく分かる／だいたい分かる」と回答した児童生徒の割合【再掲】	%	小学校 5 年生 73.1 中学校 2 年生 59.5	小学校 5 年生 67.5 中学校 2 年生 54.3	D	小学生 77 中学生 65

評価・課題

- 令和 6 年度実施の教員採用選考試験の小学校、中学校、養護教諭、栄養教諭を合わせた本県の志願者数は、961 名（前年比+25 名）であり、全国的に教員採用試験志願者数が減少していく中、本県は一定程度の採用倍率を維持できている。

今後の展開

- 計画的な教員採用に努めるとともに、説明会等を通して教職の魅力を広くアピールしたり、大学推薦枠の拡大など、優秀な学生や講師の採用を促進するために多様な採用選考試験を実施したりすることで、優秀な人材の確保に取り組む。

2 学校における働き方改革の推進

令和 6 年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 62～65 頁

学校を支える専門スタッフの充実

- ・ 令和 6 年度から障害者雇用により教員業務支援員を配置（県立学校 8 名）

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R6 年度実績	評価	R7 年度目標
28	県立学校教職員の年次休暇の年間取得日	日	9.1	13.1	B	15 以上

評価・課題

- 教員業務支援員を配置した学校では、資料作成や教科の教材作りなど、今まで放課後に教職員が行ってきた業務への支援により、教員の時間外在校等時間の削減につながった。

今後の展開

- 障害者雇用による教員業務支援員については、学校が求める業務に応じて、個々の教員業務支援員の障害や適性に合わせながら、一層の増員を行っていく（令和 7 年度は最大 28 名）。

1 地域と協働する学校づくりの推進

令和 6 年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 66～67 頁

連携・協働の推進

- ・ 学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の充実や地域学校協働活動推進員等の活用により、学校と地域住民や保護者等がビジョンや目標を共有して学校運営に参画する仕組みづくりを推進

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R6 年度実績	評価	R7 年度目標
29	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」との質問に「よく行った」または「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	%	小学校 78.6 中学校 63.2 (R元年度)	小学校 82.3 中学校 65.7	B	小学校 83 中学校 68

評価・課題

- コミュニティ・スクールの導入については、運営協議会委員の人材確保や学校の負担増に対する不安、育てたい子ども像などのビジョンの共有が十分でないといった課題がある。

今後の展開

- 現在コミュニティ・スクールが導入されていない学校については、学校と地域との連携を通して培われた協働体制を生かしながら、円滑に導入が進められるよう支援していく。

2 学校の特色化・魅力化の推進

令和 6 年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 68～70 頁

魅力ある学校づくりの推進

- ・ 「魅力あふれる県立高校推進事業」における研究成果である「魅力あふれる香川型教育メソッド<1>」を用いて、「香川型探究学習」の考え方や実現のための方法論を研究指定校以外の県立高校に普及、推進

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R6 年度実績	評価	R7 年度目標
30	探究発表会（相当以上の発表会）に参加した県立高校数	校	14	20	A	19

評価・課題

- 多くの高校で、特色のある探究的な学びの実践とそれによる学校の魅力化・特色化の取組みが行われた。

今後の展開

- 香川型探究学習推進事業や郷土に誇りを持つ教育の推進事業を通して、すべての県立高校における魅力化・特色化及び魅力の発信を推進する。
- 各学校による自校の取組みについてのホームページ掲載やパブリシティを積極的に実施するとともに、学校行事や地域と連携した活動を通じた効果的な情報発信を図る。

重点項目 6 家庭や地域での学びの環境づくり

基本的方向① 家庭・地域の教育力の向上

1 家庭の教育力の向上

令和 6 年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 71～72 頁

親育ちのための学習機会の充実

- ・ 保護者がインターネット利用について考える学習会へ、さぬきっ子安全安心ネット指導員の派遣（53 回、参加者約 6,450 名）

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R6 年度実績	評価	R7 年度目標
31	保護者学習会への「さぬきっ子安全安心ネット指導員」の派遣数(年度)	回	25	53	B	75

評価・課題

- 学校やPTAと連携を深め、保護者が集まる機会での講座、ワークショップや保護者同士が学び合う機会の提供に努めているが、保護者が集まる機会が減少し、学び合う場が少なくなっている。

今後の展開

- 保護者が集まる場を家庭教育の学習機会として活用するよう働きかけ、子どもの成長を実感したり、子どもの成長を促したりする関わり方等を学ぶ機会を提供する。
- 地域の多様な人材を活用したきめ細かな家庭教育支援を積極的に進めていく。

2 地域の教育力の向上

令和 6 年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 73～74 頁

地域全体で子どもを育てる機運の醸成

- ・ 地域学校協働活動手引書「つな Go！学校・家庭・地域」を活用し、各市町に地域学校協働活動等について広報啓発を実施

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時(R2)	R6 年度実績	評価	R7 年度目標
32	「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」との質問に「よく行った」または「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合【再掲】	%	小学校 78.6 中学校 63.2 (R元年度)	小学校 82.3 中学校 65.7	B	小学校 83 中学校 68

評価・課題

- 地域学校協働活動やコミュニティ・スクールの趣旨や仕組みの理解が少しずつ進んできており、地域学校協働本部及び学校運営協議会の設置数も増加傾向にある。
- 地域コーディネーター等、地域学校協働活動の中心となる人材が不足している。

今後の展開

- 引き続き、地域学校協働活動やコミュニティ・スクールの趣旨や仕組みについて、各市町や学校に丁寧な説明する機会を確保する。
- 地域と学校との連携・協働体制に持続性・多様性を持たせることをめざし、地域や学校の実情に応じた体制の構築について、研修会等で働きかける。

1 子どもが読書に親しめる環境づくり

令和 6 年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 75～76 頁

家庭における読書活動の推進

- ・ 保護者を対象に家庭での読み聞かせの大切さや、乳幼児期からの読書の重要性について伝える「親子読み聞かせ教室」を実施（15 幼稚園、11 保育園、6 認定こども園）
- ・ 「親子読み聞かせ教室」に派遣している読み聞かせアドバイザーを対象としたスキルアップ研修会を実施（参加者数 17 名）

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R6 年度 実績	評価	R7 年度 目標
33	親子読み聞かせ教室に参加した保護者の割合	%	61.2	44.8	D	76

評価・課題

- 幼稚園、保育所（園）、認定こども園の保護者を対象に、読み聞かせのコツや効用等について学ぶ教室を開催し、保護者の読み聞かせの必要性についての関心と理解を深めた。今後も継続して読み聞かせを実施する機会の確保に努める必要がある。

今後の展開

- 読み聞かせアドバイザーを対象としたスキルアップ研修会については、アドバイザー同士が意見交換を行い、互いの資質向上につながるよう、より実践的なものとする。

2 生涯学べる環境づくり

令和 6 年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 77～78 頁

県立図書館の充実

- ・ ホームページでは、蔵書検索や講座・展示等の周知のほか、オンライン利用者登録申請、My 本棚、返却期限お知らせメール、スマートフォンを利用した資料の貸出し、県内大学図書館等も含めた資料の県内横断検索や、「デジタルライブラリー」に新たに郷土資料 19 点をデジタル化して公開するなど、利用者サービスや利便性の向上のための取組みを推進

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R6 年度 実績	評価	R7 年度 目標
34	県立図書館の利用者数	人	463,054 人 (H29～R元年度の平均)	401,170 人	D	480,000 人

評価・課題

- 高齢化や人口減少に加え、情報通信技術の進展やコンテンツの充実にとともに、書籍に頼らなくても、ウェブ上で簡単に情報が入手できるなど、県立図書館の利用者数の減少につながる要因があるなか、コロナ禍で図書館利用の習慣が減少した影響が継続し、昨年度の利用者数は 401,170 人となり、令和 5 年度より 206 人（対前年比 0.05%）の微増にとどまった。

今後の展開

- 県立図書館においては、利用者数の回復に向け、蔵書資料の充実など利用者ニーズに応じたサービスの提供に一層努めるとともに、子ども向けのおはなし会や各種企画展示、参加型イベントの開催など、来館することで得られる価値を高めた取組みを積極的に進める。

重点項目 7 スポーツの振興

基本的方向① 多様なスポーツ環境づくり

1 生涯にわたリスポーツに親しむことができる環境づくり

令和 6 年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 79～80 頁

スポーツに親しむ機会の提供

- ・ 県内生涯スポーツの祭典である県民スポーツ・レクリエーション祭を開催（スポーツ大会を県内スポーツ施設で 23 種目実施し、3,766 名が参加）

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R6 年度 実績	評価	R7 年度 目標
35	成人の週1回以上のスポーツ実施率	%	54.9 (R元年度)	58.2	B	65

評価・課題

- 県民スポーツ・レクリエーション祭のスポーツ大会は、予定されていたすべての大会を開催することができ、県民が気軽にスポーツを楽しむ機会を提供することができた。令和 7 年度以降は「みなスポ！かがわ」としてリニューアルし、スポーツ・レクリエーションを始めるきっかけ作りの場を更に広く提供していきたい。

今後の展開

- 県民スポーツ・レクリエーション祭のスポーツ大会については、「みなスポ！かがわ」スポーツ大会として開催し、新しい種目が実施できるようスポーツ団体に働きかけていくとともに、参加者増へ向けた広報等の取組みを行う。

1 トップアスリートをめざし、競技力を高めることができる環境づくり

令和 6 年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 81～82 頁

ジュニア期からのタレント発掘、育成

- ・ 豊かなスポーツの素質を持つ小学校 4、5 年生を毎年発掘し、小学校卒業までの間、月 2 回程度、4～6 年生 3 学年を対象に行うスーパー讃岐っ子育成プログラムを実施（計 52 回）
- ・ 小学校 3、4 年生の希望する児童を対象に、未普及競技の体験教室を含むスポーツ体験プログラムを実施（計 5 回、100 名）

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R6 年度 実績	評価	R7 年度 目標
36	オリンピック大会に出場した本県関係の選手数	人	2 (過去5大会の平均)	3	A	3 (R6年度)
37	国民体育大会男女総合成績 (国民スポーツ大会)	位	31 (H27～R元年度の平均)	30	B	20 台

評価・課題

- かがわジュニア育成プランから育った本県出身選手が全国大会で活躍するなど、成果が上がっている。
- 国民スポーツ大会(佐賀)が開催され、目標の 20 位台に一步及ばず 30 位という結果となった。

今後の展開

- 短期的には有望競技の重点強化、中長期的にはジュニア選手の発掘・育成に努めるなど、本県の競技力水準の維持・向上を図るため、継続的な強化・支援を行う。
- スーパー讃岐っ子の募集について、小学生 4、5 年生を対象にしていたものを 3 年生から実施し、より効果的に展開できるよう進めていく。

8 文化資源の継承・充実と地域づくりへの積極的な活用

令和6年度の主な取組み・実績

詳細は全体版 83～84 頁

文化財の指定等

- ・ 「金刀比羅宮 12 棟」、「瀬戸内海歴史民俗資料館」が国の重要有形文化財（建造物）に指定
- ・ 「銅鐸 陶内間出土 1 口」が県指定有形文化財（考古資料）、「船越八幡神社のオトグイ」が県指定無形民俗文化財に指定
- ・ 「旧渡邊家住宅主屋」など 3 件が登録有形文化財（建造物）に登録
- ・ 「金刀比羅宮境内林」（檜皮採取林）が国のふるさと文化財の森に設定

文化財の活用

- ・ 文化財保存活用地域計画策定後の継続支援（1 件：小豆島町（小豆島町文化財保存活用地域計画推進協議会への参画））
- ・ 個別の文化財保存活用計画の作成を支援（完成 2 件：史跡引田城跡、重要文化財香川県庁舎旧本館及び東館、策定中 4 件：史跡津田古墳群・富田茶臼山古墳、史跡讃岐遍路道志度寺境内、重要文化財旧恵利家住宅、重要文化財鍋島灯台）

「人生 100 年時代のフロンティア県・香川」実現計画に掲げている指標の現状と評価

指標	単位	教育基本計画 策定時(R2)	R6 年度 実績	評価	R7 年度 目標
国県指定の文化財数[累計]	件	14 (H28～R2 年度)	8	B	15
文化財の保存活用計画と文化財保存活用地域計画の作成件数[累計]	件	1	12	A	12

評価・課題

- 指定・登録は、2 件の建造物が国指定有形文化財に指定、3 件の建造物が国登録有形文化財に登録されたほか、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により停滞していた県指定についても 2 件の文化財を指定するなど、中長期的な指定計画に基づく調査や国、県文化財保護審議委員、所有者、市町等との調整等が着実に進められ、順調に指定・登録件数が増加している。
- 文化財の計画的な保存・活用を進め、地域づくりに活かすため、市町は文化財保存活用地域計画を策定する必要があるが、策定は小豆島町のみに留まっている。計画作成による国からの補助金や交付金の枠が広がる等のメリットを伝えるなど策定を支援しているが、進捗していない。令和 6 年度から、市町が行う保存修理事業への県補助の要件に地域計画が策定済、または策定着手を加えるなどの仕組みを整えた結果、一部の市町は令和 7 年度から策定に取り組む意向を示している。

今後の展開

- 文化財の指定については、文化庁や県文化財保護審議委員、市町や所有者と連携し、中長期の指定計画に位置付けている個々の文化財の調査を着実に進めるとともに、新たに価値付けされた文化財についても指定を推進していく。
- 文化財の保存修理や活用に係る事業が、各市町において計画的、効果的に行うことができるよう、法定計画である保存活用計画や保存活用地域計画の策定を各市町に促し、また、地域づくりに貢献する取組みとして位置づけられるよう、市町内での連携を促す。

Ⅳ 「香川県教育基本計画」及び『「人生100年時代のフロンティア県・香川」実現計画』に掲げている数値目標に対する現状と評価

番号	項目	現状	令和3年度 実績・評価		令和4年度 実績・評価		令和5年度 実績・評価		令和6年度 実績	評価 ※1	令和7年度の目標
① 学力の育成											
1	「授業の内容がよく分かる／だいたい分かる」と回答した児童生徒の割合	小学校5年生 73.1% 中学校2年生 59.5%	70.9% 60.5%	C	69.7% 57.5%	D	68.5% 55.5%	D	67.5% 54.3%	D	小学校5年生 77% 中学校2年生 65%
2	全国学力・学習状況調査における正答率40%未満の児童生徒の割合の全国平均との差	小学校6年生 -1.8pt (R元年度) 中学校3年生 0.0pt (R元年度)	-0.4pt 1.7pt	D	-1.8pt 2.2pt	C	-1.1pt 0.5pt	C	-1.8pt 0.7pt	D	小学校6年生 -2.4pt 中学校3年生 -0.6pt
3	「読書は好きですか」との質問に、「好き」または「どちらかといえば好き」と回答した児童生徒の割合	小学校5年生 79.7% 中学校2年生 74.0%	77.6% 71.2%	D	75.6% 67.4%	D	74.9% 66.0%	D	73.1% 63.7%	D	小学校5年生 82% 中学校2年生 75%
4	授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合	小学校 68.8% 中学校 59.2% 高校 85.4% 特別支援学校 70.5% (R元年度)	67.2% 58.0% 82.4% 67.8% (R2年度)	D	71.8% 62.9% 80.7% 66.7% (R3年度)	D	74.4% 63.3% 84.2% 82.6% (R4年度)	C	76.5% 65.7% 85.4% 79.9% (R5年度)	D	小学校 100% 中学校 100% 高校 100% 特別支援学校 100%
5	「英語の授業では、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか」との質問に「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	中学校 75.8% (R元年度)	80.8%	A	86.7%	A	84.0%	A	80.7%	A	中学校 80%
6	幼小の円滑な接続に向け、接続期のカリキュラムを検討する研修会に参加した幼稚園の割合	20.5%	49.4%	A	57.1%	A	67.6%	A	78.8%	A	80%
7	通常の学級に在籍する、障害のある児童生徒などのうち、特別な支援を必要とする児童生徒※の中で、「個別の指導計画」が作成されている割合※通級による指導対象者を除く	小学校 37.3% 中学校 11.0%	41.1% 18.2%	B	47.1% 9.5%	C	47.6% 15.3%	C	48.7% 13.3%	C	小学校 60% 中学校 50%
8	異校種の児童生徒を対象とした交流事業を行っている県立高校の割合	24.1%	24.1%	D	48.3%	A	55.2%	A	55.2%	A	50%
② 心の育成											
9	「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」との質問に、「思う」と回答した児童生徒の割合	小学校5年生 77.2% 中学校2年生 76.1%	76.6% 75.3%	D	76.4% 75.5%	D	75.5% 74.9%	D	76.7% 75.5%	D	現状を上回る水準
10	「自分には、よいところがあると思いますか。」との質問に、「思う」または「どちらかと言えば思う」と回答した児童生徒の割合	小学校5年生 71.2% 中学校2年生 66.4%	66.4% 67.9%	C	68.7% 68.3%	C	69.6% 70.6%	C	70.8% 72.1%	C	小学校5年生 72% 中学校2年生 67%
11	「本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」との質問に、月に1～3回以上と回答した児童生徒の割合	小学校5年生 71.9% 中学校2年生 33.1%	69.8% 34.5%	C	67.0% 31.8%	D	65.0% 31.1%	D	65.2% 29.8%	D	小学校5年生 76% 中学校2年生 38%
12	人権・同和教育教職員ハンドブックを活用して校内研修を行った学校の割合	50.8%	65.9%	A	61.2%	B	88.3%	A	94.5%	A	100%
13	「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」との質問に、「思う」と回答した児童生徒の割合	小学校5年生 86.9% 中学校2年生 82.5%	84.9% 82.2%	D	81.7% 78.6%	D	81.0% 79.6%	D	81.0% 78.4%	D	現状を上回る水準
14	「学校に行くのは楽しいと思う。」に「思う」または「どちらかと言えば思う」と回答した児童生徒の割合	小学校5年生 80.3% 中学校2年生 76.5%	78.7% 75.7%	D	78.1% 75.2%	D	78.4% 77.4%	D	77.0% 77.0%	D	小学校5年生 83.0% 中学校2年生 82.3%
15	「携帯電話やスマートフォン、ゲーム機などを使う場合、家の人と決めた使用ルールを守っていますか」との質問に、「守っている」または「どちらかといえば守っている」と回答した児童生徒の割合	小学校5年生 72.5% 中学校2年生 60.6%	72.0% 61.8%	C	70.6% 62.3%	C	68.9% 61.8%	D	67.9% 60.9%	D	小学校5年生 75% 中学校2年生 66%
③ 体の育成											
16	全国体力・運動能力調査の体力合計得点の全国順位の平均	27 位 (R元年度)	26.5位	C	35位	D	26位	C	31位	D	20位以内
17	肥満傾向児童生徒の出現率の平均(各校種の出現率5年間平均)	小学校 7.76% 中学校 9.27% 高校 10.11%	8.15% 9.41% 10.11%	D	8.63% 9.90% 10.34%	D	9.19% 10.36% 10.54%	D	9.54% 10.76% 10.53%	D	現状からの減少
18	栄養教諭・学校栄養職員による教科等における食に関する指導を行っている割合	小学校 96.0% 中学校 79.1%	94.0% 92.3%	C	92.0% 89.1%	C	95.3% 90.5%	C	96.0% 85.5%	D	小学校 100% 中学校 100%
④ 郷土を愛し、郷土を支える人材の育成											
19	「今住んでいる地域(香川県)の歴史や自然、産業について関心がありますか。」との質問に、「ある」または「どちらかといえばある」と回答した児童生徒の割合	小学校5年生 66.4% 中学校2年生 44.3%	71.4% 46.6%	A	68.7% 44.2%	C	68.3% 42.2%	C	69.9% 43.6%	C	小学校5年生 68.7% 中学校2年生 53.2%
20	外部の関係機関から講師を招へいして主権者教育や消費者教育、金融教育等の取組みを行っている県立高校の割合	62.1%	41.4%	D	52.1%	D	72.4%	C	75.9%	C	100%
21	「総合的な探究の時間」や「課題研究」の授業などで、地元の自治体や大学、企業等と連携した取組みを行っている県立高校の割合	79.3%	100%	A	83%	C	100%	A	100%	A	100%
22	生徒が英語を用いた言語活動を、授業の半分以上において行っている公立高校の教員の割合	69.3% (R元年度)	53.8%	D	47.5%	D	59.5%	D	51.6%	D	80%
23	課題解決型学習の推進に向けての校内研修を実施している県立高校の割合	34.5%	37.9%	C	44.8%	C	51.7%	C	51.7%	C	100%

番号	項目	現状	令和3年度 実績・評価		令和4年度 実績・評価		令和5年度 実績・評価		令和6年度 実績	評価 ※1	令和7年度の目標
⑤ 安全・安心で、魅力あふれる学校づくり											
24	学校安全に関する外部の専門家や学校教育の専門家との連携を図るなど、学校安全計画や避難訓練等を外部有識者がチェック・助言する体制が整備されている学校の割合	41.6% (H30年度)	71.8%	A	73.1%	A	76.2%	A	76.6%	A	60%
25	県立学校におけるトイレの洋式化の割合	県立中学・高校 60.6% 特別支援学校 81.4%	62.8% 83.8%	A	63.5% 85.1%	A	64.4% 85.9%	A	65.4% 87.0%	A	県立中学・高校 65% 特別支援学校 85%
26	経済的な理由で修学が困難な生徒等に対する奨学金の貸与	—	—	—	—	—	—	—	—	—	着実な実施
27	「授業の内容がよく分かる／だいたい分かる」と回答した児童生徒の割合【再掲】	小学校5年生 73.1% 中学校2年生 59.5%	70.9% 60.5%	C	69.7% 57.5%	D	68.5% 55.5%	D	67.5% 54.3%	D	小学校5年生 77% 中学校2年生 65%
28	県立学校教職員の年次休暇の年間取得日数	9.1日	11.8	A	12.1日	A	14.1日	A	13.1日	B	15日以上
29	「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」との質問に「よく行った」または「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	小学校 78.6% 中学校 63.2% (R元年度)	80.6% 59.1%	C	77.1% 58.2%	D	83.6% 71.9%	A	82.3% 65.7%	B	小学校 83% 中学校 68%
30	探究発表会(相当以上の発表会)に参加した県立高校数	14校	15校	A	19校	A	20校	A	20校	A	19校
⑥ 家庭や地域での学びの環境づくり											
31	保護者学習会への「さめきっ子安全安心ネット指導員」の派遣数(年度)	25回	12回	D	23回	D	37回	C	53回	B	75回
32	「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」との質問に「よく行った」または「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合【再掲】	小学校 78.6% 中学校 63.2% (R元年度)	80.6% 59.1%	C	77.1% 58.2%	D	83.6% 71.9%	A	82.3% 65.7%	B	小学校 83% 中学校 68%
33	親子読み聞かせ教室に参加した保護者の割合	61.2%	65.9%	A	64.6%	B	58.3%	D	44.8%	D	76%
34	県立図書館の利用者数	463,054人 (H29～R元年度の平均)	409,783人	D	396,949人	D	400,964人	D	401,170人	D	480,000人
⑦ スポーツの振興											
35	成人の週1回以上のスポーツ実施率	54.9% (R元年度)	54.6%	D	52.5%	D	53.0%	D	58.2%	B	65%
36	オリンピック大会に出場した本県関係の選手数	2人 (過去5大会の平均)	7人	—	—	—	—	—	3人	A	3人 (R6年度)
37	国民体育大会男女総合成績 (国民スポーツ大会)	31位 (H27～R元年度の平均)	中止	—	36位	D	29位	A	30位	B	20位台

※【評価対象が複数ある場合の評価方法】指標の評価を、A: 4点、B: 3点、C: 2点、D: 1点と換算し、その合計を指標数で除して算出

『人生100年時代のフロンティア県・香川』実現計画」に掲げている 数値目標に対する現状と評価

項目	現状	令和3年度 実績・評価		令和4年度 実績・評価		令和5年度 実績・評価		令和6年度 実績	評価	令和7年度の目標
国県指定の文化財数[累計]	14 (H28～R2年度)	1	C	2	C	4	C	8	B	15
文化財の保存活用計画と文化財保存活用地域計画の作成件数[累計]	1件	4件	A	7件	A	10件	A	12件	A	12件

V 報告書の公表

報告書は、教育委員会事務局総務課、各教育事務所、県民室、各県民センターに備え付けるほか、県教育委員会Webサイトにおいて公表する。

(参考) 令和6年度に策定した計画(プラン)

計画(プラン)の名称	URL
香川県中学校部活動地域移行等推進の手引き	https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/hokentaiiku/taiiku-sports/taiiku/tiikiikou_tebiki.html

令和 7 年度

教育委員会の事務の管理及び執行の

状況の点検及び評価に関する報告書【概要版】（令和 6 年度対象）

郷土を愛し 夢と志を持って 自ら学び 歩み続ける人づくり

～自立・協働・創造を支える香川の教育～

香川県教育委員会